

修士論文（要旨）  
2019年7月

日本語の文章における読点の用法について

指導 青山 文啓 教授

言語教育研究科  
日本語教育専攻  
217J3901  
石田 茂恵木

Master's Thesis(Abstract)  
July 2019

A Study of Punctuation Marks in Japanese: Focus on the Comma Equivalent

Moegi Ishida

217J3901

Master's Program in Japanese Language Education

Graduate School of Language Education

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Fumihiko Aoyama

## 目次

序章 .....	1
第1章 先行研究にみる句読点の用法	
1.1 文法的要素及び文の構造から見た、読点に関する先行研究.....	3
1.2 作家の文体としての読点 .....	4
1.3 句点に関するまとめ .....	5
第2章 私たちはどのように読点の打ち方を学ぶのか	
2.1 日本国内の国語教科書から学ぶ句読点の打ち方.....	8
2.2 日本語学習者用の日本語教材から学ぶ句読点の打ち方.....	10
第3章 私たちはどのように読点を打つのか	
3.1 調査の概略 .....	16
3.2 読点を多く打つ人、少なく打つ人とその特徴.....	18
3.3 著者の読点が「正解」ではない .....	21
3.4 母語の違いによる読点の打ち方の違い .....	23
3.5 文の長さからみた読点 .....	26
3.6 文法的要素からみた読点 .....	28
3.7 書き手としての読点、読み手としての読点.....	30
3.8 文字種と読点との関係 .....	31
第4章 考察 .....	35
参考文献	
巻末資料1	
巻末資料2	
巻末資料3	

日本語の文章は不規則なところに味わいが存するのでありまして、句切りやその他の符号などもあまりはっきりしない方が面白いのでありますから、(中略)さればこれらの符号の付け方も、規則で縛ってしまわずに、その文章の性質に依り、字面の調和不調和をも考え合わせて、適当に塩梅した方がよいかと思えます。

谷崎潤一郎『文章読本』

本稿の研究目的は、私たちが日頃日本語の文章を書く際に、谷崎の言う「適当に塩梅」を実際にどのように行っているのかを、特に読点に着目して考察することである。

読点の打ち方には文法的な規則がある。公的には 1946 年に文部省教科書局から「くぎり記号の使い方[句読法] (案)」も出されている。しかし私たちは日頃、規則に従うというよりむしろ、読みやすさや文の区切りを明確にするために読点を打つことが多い。そのため、読点の打ち方は人により異なっている。筆者は、読点の打ち方が人によって異なる理由を以下のように考えた。

a. 主に書き手を起因とする理由

- [ア] 学校で読点の打ち方を正式に習ったことがないため
- [イ] 読点をたくさん打った方が読みやすいと感じる人と、そうでない人がいるため
- [ウ] 日本語を母語とするか、そうでないかにより違いがあるため
- [エ] 書き手が読点に対する考え方にこだわりを持っているため

b. 文章自体の特徴を起因とする理由

- [カ] 長い文には読点が多く打たれ、短い文には少なく打たれるため
- [キ] 文の品詞や活用形と関係があるため
- [ク] 文の構造と関係があるため
- [ケ] 文の文字種と関係があるため

これらを検証するために、本稿ではまず、日本国内の小中学校で使用されている国語の教科書をもとに、どの学年でどのように読点の打ち方を学ぶかを調査した。その結果、読点に関する項目はあったものの、主に文章を書いた後で推敲する際に、読みやすさを目安に読点を打つことを教えている教科書が多かった。一方、日本語学習者はどのように読点の打ち方を学んでいるのか、日本語学習者用の教材を調べたところ、文法的な規則、つまり連用中止や並列、感嘆詞や呼びかけの後に打つというように、かなり具体的に説明がなされていることがわかった。この違いは、日本語母語話者には書き手自身が読みやすいと思うかどうかを、非母語話者には文法を目安として読点を打つことを教えているためではないかと考えた。

次に、日本語母語話者 10 名と非母語話者 10 名の調査協力者に、日本語で書かれた文章から読点を取り除いた例文をいくつか提示し、自分が必要だと思ったところに読点を打ってもらい調査を行い、その結果について分析した。提示する例文は、小説や取扱説明書などさまざまな分野から、それぞれ何らかの特徴を持つ文章、例えばひらがなが多い文章や、読点がないと係り受けがわかりにくい文章などを選んだ。その結果、調査協力者全体の読

点の打ち方については、読点を多く打つ人と少なく打つ人にかかなりの数の差が見られたが、母語の違いについては明確な相違点は見られなかった。また、文章の特徴から見た読点との関係については、文の長さ、品詞や活用形、文の構造と読点の打ち方とは関係があるという結果が得られたが、同じ文字種が続くと読点を打つことが多くなるかどうかについては、際立った特徴は見られなかった。

これらの調査から、読点の打ち方が人によって異なるのは、書き手側だけの要因ではなく、文章の特徴とも関係があり、双方が持つさまざまな要因によって、書き手が自分の文体としての読点を打っているためであるという結論に至った。

## 参考文献

- 朝日新聞社用語幹事編 (2015) 『朝日新聞の用語の手引[新版]』朝日新聞出版 pp.161-163
- 石黒圭 (2009) 『よくわかる文章表現の技術 I 一表現・表記編一[新版]』明治書院 pp.1-21
- 稲垣滋子 (1989) 「符号の用い方」『講座日本語と日本語教育 8 日本語の文字・表記(上)』  
明治書院 pp.270-275
- 大類雅敏 (1978) 『文体としての句読点』栄光出版社 pp.68-70
- 岡崎洋三 (1988) 『日本語とテンの打ち方』晩聲社 pp.83-91
- 樺島忠夫 (1979) 『日本の文字一表記体系を考える一』岩波書店 pp.189-191
- 佐々木良造／薄井良子 (2013) 「中国語を母語とする日本語学習者の句読点使用に関する  
研究」『関西学院大学日本語教育センター紀要』(2), pp.5-19
- 佐藤政光 (2000) 「日本語の読点について一規則の再検討一」『明治大学教養論集 通巻  
331号』 pp.1-18
- 谷崎潤一郎 (2016) 『陰翳礼讃・文章読本』新潮社 pp.292-293
- 中村明 (2016) 『センスをみかく文章上達事典 新装版』東京堂出版 pp.14-18
- 芳賀純／安本美典 (1968) 『心理学入門講座(新版) 11 ことば・文章 効果的なコミュ  
ニケーション』大日本図書 pp.100-161
- 波多野完治 (1941) 「句読点の心理學」『日本の言語学 第1巻 言語の本質と機能』大修  
館書店 pp.602-624
- 深瀬明子 (2004) 「読点の打ち方に個人差を生じさせている要因について」『山形大学日本  
語教育論集』6, pp.45-63
- 本多勝一 (2015) 『(新版) 日本語の作文技術』朝日新聞出版 pp.89-157
- 前川守 (1995) 『1000 万人のコンピュータ科学 3 文学編 文章を科学する』岩波書店  
pp.8-15
- 水野麗子 (2000) 「中国語と日本語における「句読点」の対比」『明治学院大学外国語教育  
研究所紀要』10, pp.81-97
- 森山卓郎 (2013) 「句読点、補助記号とその表現効果」『日本語学』32(5), 明治書院  
pp.132-143
- 安本美典 (1959) 「文章の性格学」への基礎的研究一因子分析法による現代作家の分類一  
『日本の言語学 第1巻 言語の本質と機能』大修館書店 pp.509-538
- 安本美典 (1965) 『文章心理学入門』誠信書房 pp.89-201
- 吉田健一 (1976) 「批評の文体」『文學界』30(8) 文藝春秋 pp. 154-156
- 文部省教科書局調査課国語調査室 (1946) 『くぎり記号の使ひ方[句読法] (案)』  
[http://www.bunka.go.jp/kokugo\\_nihongo/sisaku/joho/joho/series/56/pdf/kokugo\\_serie  
s\\_056\\_05.pdf](http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/series/56/pdf/kokugo_series_056_05.pdf) (最終閲覧 2019年5月22日)

## 用例出典（第1章）

- 京都日本語教育センター 西原純子・吉田道子・桑島卓男（2013）『初・中級学習者向け  
日本語教材日本文化を読む』アルク pp.28,120
- スリーエーネットワーク[編著]（2008）『みんなの日本語 中級Ⅰ 本冊』スリーエーネッ  
トワーク pp.141,165
- 平井悦子／三輪さち子（2009）『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』スリー  
エーネットワーク pp.46,164
- 文化外国語専門学校（1997）『文化中級日本語Ⅱ』凡人社 pp.176,201
- 松田浩志ほか（1994）『テーマ別 上級で学ぶ日本語（改訂版）』研究社 pp.57-58,84-86
- 吉田健一（1994）『本当のような話』講談社 p.190

## 国語教科書（第2章）

光村図書出版 国語

[小学校]2014年検定済

小学1年（上）かざぐるま pp.41, 124

小学1年（下）ともだち p.20

小学2年（上）たんぽぽ pp.20, 33, 69

小学2年（下）赤とんぼ p.124

小学3年（上）わかば pp.6, 60

小学4年（上）かがやき p.6

小学5年 銀河 pp.174-175

小学6年 創造 p.8

[中学校]2015年検定済

国語1 pp.68, 226-227

国語2 p.111

国語3 pp.218-219

[教師用指導書]2015.2.25 発行

小学校国語学習指導書5 銀河（下） pp.141-151

小学校国語学習指導書別冊5 銀河 pp.172-175

小学校国語指導事例集 5年－27版対応実践記録－ pp.125-131

東京書籍

[小学校]2004年検定済

新編 あたらしいこくご1年上 p.65

新しい国語2年上 pp.20-21

新しい国語3年下 p.43

新しい国語4年下 p.127

新しい国語5年上 p.29

[中学校]2011年検定済

新編 新しい国語 1 p.282

新しい国語 2 pp.257, 289

新しい国語 3 p.288

### 日本語学習者用教材（第2章）

アカデミック・ジャパニーズ研究会[編] (2001)『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』アルク p.12

石黒圭／筒井千絵 (2009)『留学生のための ここが大切 文章表現のルール』スリーエーネットワーク pp.66-69

佐藤政光／加納千恵子／田辺和子／西村よしみ (1986)『実践にほんごの作文』にほんごの凡人社 pp.3-4

佐藤政光／田中幸子／戸村佳代／池上摩希子 (2002)『表現テーマ別 にほんご作文の方法』第三書房 pp.7, 12, 17, 21, 27

二通信子／佐藤不二子 (2000)『改訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク pp.24-25

浜田麻里／平尾得子／由井紀久子 (1997)『大学生・留学生のための論文ワークブック』くろしお出版 pp.13-15

### 用例出典（第3章）

アストリッド・リンドグレーン (1964)『長くつ下のピッピ』大塚勇三訳 岩波書店 p.98

栗原はるみ (1992)『ごちそうさまが、ききたくて。』文化出版局 p.34

国際協力機構 (2017)『国際協力機構 年次報告書 2017』 p.68

「地球の歩き方」編集室[編] (2015)『地球の歩き方 A01 ヨーロッパ 2015~2016 年版』ダイヤモンド社 p.351

「天声人語」『朝日新聞』2018.6.18 付

東京都生活文化局広報広聴部広報課 (2018)『広報東京都 2018年6月』 p.4

東芝 (発行年不明)『SD/USB/CD ラジオ取扱説明書』 p.32

日本ソムリエ協会 (2016)『日本ソムリエ協会教本』 p.139

平井宜雄／青山善充／菅野和夫[編] (2001)『六法全書 平成13年版1』有斐閣 p.36

宮下奈都 (2015)『羊と鋼の森』文藝春秋 p.3

鷺田清一「折々のことば 1138」『朝日新聞』2018.6.14 付